

## 第9回高校生国際シンポジウムに参加しました

2月21日(水)、22日(木)に鹿児島市で開催された「第9回高校生国際シンポジウム」に高校1年2組寺田惟仁さん、山田匠太郎さん、高橋煌良さん、4組合澤千陽さん、6組山下礼愛さん、高校2年3組福田航也さん、永井朱李さん、4組増田理裕さん、6組河野太智さん、早稲田晃大さん、7組川内野穂香さん、道向桜駕さんが参加し、研究発表や研修を行いました。長崎県で唯一、一次審査を通過して本選で課題研究のポスター発表をした増田さんと福田さんは、これまでの研究と練習の成果を発揮し、参観者から称賛される発表ができました。審査員との質疑応答においても研究内容を的確にわかりやすく説明できており、研究活動の成熟と成長が感じられる発表でした。研修で参加した生徒も他校の研究発表を聴いて、その研究の深さ、発表スキルの高さに驚きながらも、ここで見聞きしたことをまずは自分が吸収し、3月の探究発表会につなげようとする意欲が感じられ、有意義な時間となりました。

このシンポジウムには、各分野のトップランナーと呼べる実業家や研究者が多く参加しており、基調講演やパネルディスカッション、進路座談会や審査員・生徒との交流会も実施されました。生徒たちは参加者と積極的に交流をはかりながら、自分の進路実現やキャリア形成についても真剣に考える貴重な機会となったようです。

参加したある1年生は、これから探究活動を頑張って、次年度は研究発表をするためにここに戻ってきたいと言い、多くの生徒が探究活動において学年のリーダーとして活躍すると宣言してくれました。生徒たちが書いた感想文からも、この研修が如何に実り多いものだったかが伝わってきました。

### 【高校生国際シンポジウムに参加して】

今回の鹿児島国際シンポジウムでは、発表や審査員の講評から多くの学びを得られた。まず、パネルディスカッションでは、審査員の方々の意見を聞くことができた。一番印象に残ったのは、「社会に役に立ちたいからこそ、本当に興味のあることを研究しよう」ということだ。これは、自分が好きだと思ったことを研究することが大事で、後からそれが社会の役に立つようになるということだ。多くの審査員の方が言っていた。好きだからこそその研究を続けられるし、他の人にはない考え方ができるのだと、その言葉を聞いて思った。それは、他の生徒たちの発表を聞いても分かった。自分たちの発表については、前日も先生や友達から修正するところをチェックしてもらい練習をしたため、多少の言葉の詰まりはあったが、変に緊張することなくできた。後の講評では、グラフの軸の説明、情報の精査、問いと結果がかみ合っているかなど、発表や研究で気を付けるべきことを教えていただいた。特に、「初めて聞く人でもわかるように客観的にシンプルなストーリーにする」ということが自分たちの発表に足りていなかったところだと思った。今回得た知識を、3月の校内発表や、これからの発表の機会につなげていきたい。(福田航也くん)



今回、この国際シンポジウムに参加させていただいて探究についてはもちろん、自分の進路や人としてのあり方など本当に多くのことを感じ、学ぶことができました。私が一番感じたことは、探究の面白さです。他校の参加者の探究発表を聞かせていただいたとき、ある意味で本当の探究を知ることができました。参加者全員が、本当に自分が疑問に感じたことについて徹底的に調べて、実験して、考えて、必要なら専門家の方たちの協力を得て自分なりの結論を出していました。発表者が楽しそうに探究結果を発表する姿は非常に印象的でした。振り返ってみると、私は探究活動を楽しめていなかったと思います。だから、素直にうらやましさを、もっと自分の疑問と素直に向き合い、探究を楽しみたかったという後悔を感じました。他にも、他校の生徒や大学の教授などの普段触れ合わない方たちとの交流を通して、自分の視野を広げることができました。特に印象に残っているのは「自分に自信がなくても今の自分を見つめて、これから訪れる機会を逃さないことが大切だ」という主催者の岡本さんの言葉です。私は、自分にあまり自信を持てなかったので、自分にとっては救いの言葉でした。今回、このような貴重なイベントに参加することができて、本当に良い経験になりました。この経験をこれからの探究活動や進路選択に活かしていきたいと思います。

(河野太智くん)

この研修を通して最も印象深かったのは、1日目に行われたパネルディスカッションだ。まず驚いたのが、前首相で政治家の麻生太郎さんのご兄弟、麻生泰さんがご出席されていたことだ。事前の集会で鳥居先生が言われていたように、この研修が「一流」であることをひしひしと感じた。加えて元世界銀行の副総裁、日下部元雄さんをはじめとして、オックスフォード大の日本事務所代表であるアリソン・ピールさんなども来られていて、彼らがパネラーとして行ったディスカッション「学び続けるために必要なこととは？」には、聞き入ってしまった。ポスターセッションでは、たくさんの目を引くテーマの研究を聞くことができた。中には専門性が高く、容易に理解できないものもあった。物理および生物を選択されていた2年生の先輩方が、1年生よりも深く内容を理解できていたので、来年もこの場を訪れ、より多くを吸収できるように、自身の探究活動に力を入れたいと思う。発表者の話を聞くだけでなく、発表者や彼らのプレゼンテーションの審査を行った審査員の方と交流する機会もあり、貴重な経験だった。他県から来ていた生徒数名と対話することができ、知見を広げられた。そして、審査員である岡田さんともお話でき、「内発的動機づけ」に基づいた探究の必要性を感じることもできた。この3日間で得られた感動を心に刻み、モチベーションにして今後の探究に励みたいと思う。(高橋煌良くん)



